

中学
2～3年

教材名 「海と空—樫野の人々—」 (出典「私たちの道徳」文部科学省)

国際理解

◆◆◆教材の概要◆◆◆

1985年のイラン・イラク戦争の渦中、テヘランからの脱出の手段を失っていた邦人たちが、トルコ政府から提供された「救いの翼」によって無事に帰国できたという話に基づき構成されている。脱出の当事者である主人公は、帰国後、トルコ政府の厚意の背景に、1890年のトルコ船籍エルトゥールル号遭難の際の和歌山県串本の人々の献身的行為があったことを知り、百年の時を経てもなお、その恩恵に報いようとしたトルコの人々の温情に胸を打たれる。このことから、国と国との関わり、ひいては国際的規模の相互扶助の在り方に思いを馳せることができる。世界の平和と人類の幸福に貢献することが大切であることを感じ、真の国際人としての生き方を考えさせることのできる教材である。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

国際理解の理想の実現のために基本となることは、どこの国の人々も同じ人間として尊重し合い、差別や偏見をもたずに公正、公平に接することである。

トルコ航空機に救出された主人公は、トルコ政府の決断になかなか納得できなかった。しかし、100年前のエルトゥールル号遭難の際の樫野の人々が示した献身的行為を知ることによって、国際的規模の相互扶助を実感する。樫野の人々の思いとトルコ航空機の邦人救出に通底する精神の象徴的光景としての「海と空」が一つになった水平線に焦点を当て、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って同じ人間として尊重しあおうとする道徳的心情を育みたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

海と空が水平線で一つになるのを見つめながら、私はどんなことを思っていただろう。

◆◆◆板書計画◆◆◆



・人間としては一つの地球人
・他国の問題も自分とつながっている。

一つになったもの

・樫野の人たちの行為が、今でもトルコの人々の心に受け継がれている。

「海と空が水平線で一つになる」
どんなことを思っていただろう

・同じ人間として、ただ助けたい。
・非常食を出すのは当たり前のこと。
・トルコの人々も自分たちと同じ人間。

どんな思いで残らず差し出したのだろう

樫野の人

暴風雨の中救助
ありつたけの食料を提供

なぜ納得出来なかったのだろう
・エルトゥールル号の遭難は昔の話
・自分たちの命が危険にさらされているのに…

エルトゥールル号遭難（一八九〇年）
和歌山県樫野地区

海

イラン・イラク戦争（一九八五年）
危機髪・脱出
↑トルコ政府が救援機

空

海と空

◆◆◆道徳的価値「国際理解」について◆◆◆

グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となっている。私たちは、地球規模の相互依存関係の中で生きており、我が国が、国際的な関わりを持つことなく孤立して存在することはできない。したがって、日本のことだけを考えるのではなく、広く世界の情勢に目を向けつつ、日本人としての自覚をしっかりとって国際理解に努めることが必要である。「他国を尊重」とは、他の地域や国々はそれぞれの文化や伝統、歴史を持っており、地域や国々の在り方、地域や国々がもっている理想等を、違いは違いとして理解し、それを尊重していくことを意味している。日常生活の中で社会連帯の自覚に基づき、あらゆる時と場所において協働の場を実現していく努力こそ、平和で民主的な国家及び社会を実現する根本であり、国際的視野に立って世界の平和に貢献することにつながる。人間の存在や価値について理解を深め、よりよい社会が形成されるよう人類の発展に貢献する意欲を高めることが求められる。「世界の中の日本人としての自覚」には、他国の人々や文化を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に貢献し、世界の人々から信頼される人間の育成を目指すという意味が込められている。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

長年主人公が抱いていた疑問を考えることを通して、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って同じ人間として尊重し合おうとする道徳的心情を育む。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	・教材について意識を高める。	トルコについて知っていることはありますか。 ・イスラム教・トルコアイス・国旗・アジアとヨーロッパにまたがる国	・トルコの位置が分かる地図や「エルトゥールル号遭難事故」の関係写真等を提示し興味を持たせる。 ・親日的であることやエルトゥールル号について出ない場合、こちらから提示し時間を掛けずに短時間で展開に入る。
	・教材を読む ・私が疑問を持った理由を考える。 ・樫野の人々が、どんな思いでトルコの人々を助けたのかを考える。 ・海と空が水平線で一つになるのを見つめながら、私が考えていたことを考える。	私はなぜ、トルコ政府が日本人を救出したことが納得できなかったのだろう。 ・エルトゥールル号の遭難は、随分昔の出来事なので今でもそれが影響しているとは思えない。 ・100年も前のことで、助けようと思えるのだろうか。 ・自分たちの命だって危険にさらされるのに、なぜそんなことができるのだろう。 どんな思いで樫野の人たちは、飼っていたニワトリやサツマイモなどを残らず差し出したのだろう。 ・同じ人間として助けたい。 ・非常食のニワトリを出すのは、当たり前。 ・トルコの人でも自分たちと同じ人間。 海と空が水平線で一つになるのを見つめながら、私はどんなことを思っていただろう。 ・樫野の人たちが、トルコの人々を助けたことが、自分がここにいるということにつながっているのだ。 ・樫野の人たちの行為が、今でも、トルコの人々の心に受け継がれてきたのだ。	・教材を範読する。 ・日本政府が素早い決定ができない中、トルコ政府は自国の人がいるにもかかわらず、まず216名の日本人を助けたことを補足する。 ・樫野の人々は、遭難したトルコの人々を、同じ人間として、ただ助けたいという思いであったことに気付かせる。 ・自分が助かったことが、日本人の献身的な行為に感謝したトルコ人の思いが100年たった今でも続いているということに気付くようにする。 補助発問： 『1つになったもの』って何だろう。 ・国境があっても、人間としては同じ一つの地球人である。 ・今、他国で起こっている様々な問題も、自分とつながっている。他人事ではない。 などの、本時のねらいに迫る考えを引き出したい。
終末	・今日の学習で感じたこと考えたことを振り返る。	今日の授業で感じたこと、考えたことをまとめよう。	・本時の学習を通して考えたことを基に、世界と自分のつながりについて考えることを含めて感想を書くように促す。

評価の視点（例）

- 話し合い活動や振り返りの中で、国は違っても同じ人間として尊重し合おうとするものの大切さに気付く発言や記述がある。